

望年山行 杣添尾根～横岳・硫黄岳・赤岳（敗退）

日程：2017年12月2日（土）～3日（日）

天気：2日間とも快晴（3日は上部強風）

メンバー：CL 佐藤 SL 井本 室（達） 薄井（記録）

コースタイム：

1日目：7:00 登山口～杣添尾根～12:30 横岳～14:00 硫黄岳～15:20 赤岳鉱泉）

2日目：7:00 赤岳鉱泉～行者小屋～9:30 赤岳展望荘～杣添尾根～13:55 登山口

1 1日目

今年の冬山シーズンは、一週間前の立山からスタートした。ほんの3時間しか視界が得られなかった立山スキーツアーとは違い、この週末は2日間とも晴天の予報なのでそれだけで嬉しい。ここ数年、冬はスキーばかりで荷物の重い冬山登山とは縁遠くなっているし、佐藤リーダーと井本さんはそれぞれ沢で1回一緒になっただけ、新人の室さんとは初顔合わせという組み合わせは、実はペースもよくわからず少し不安があった。

道の駅南きよさとで前泊し、コンビニに寄ってから杣添尾根登山口へ向かった。支度を済ませ、別荘地の間を抜けて登山道に入ると、出だしからそここの急登、雪はないがところどころ凍っている。リーダーがチェーンスパイクをつけたので私もザックの中を探るが、持ってきたはずのスパイクが見つからない。出かける直前にザックを入れ替えたとき、もしかしたら忘れたのかも？そのまましばらく上ったが、滑らず歩くのに苦労するようになったのでまもなく全員がアイゼンをつけた。



今日は快晴で、樹林帯ではほとんど風もない。しばらく歩くと暑くなり、気温はマイナスだがアウターを脱ぐ。半袖でもいいくらいで、夏には来たくない感じ。高度を上げると木の間から富士山が見えてきた。八ヶ岳から見える富士山は大きくて本当にきれいだ。

防寒対策をして樹林帯を抜けた。本当にいいお天気で、白い稜線がきりりと眩しい。足元の雪は思ったより深く、膝くらいあるところも。わかんは持参していない。トレースがあるからいいけれど、なければちょっと苦労したかもしれない。だんだん傾斜が急になり、途中でストックをピッケルに持ち替えた。



稜線に出ても風はそれほど強くはなく、全方位丸見えの大展望を拝んだ。横岳頂上で休憩。先にはこれから歩く硫黄岳のケルンがよく見える。他のパーティはどこまで来ただろう。

頂上から梯子や鎖の続くちょっと緊張する下りをリーダーの指示を受けながら通過した。硫黄岳山荘前からは再び硫黄岳山頂を目指す緩やかな登りになる。ゆるゆると登って14時登頂。後はもう赤岳鉱泉まで下るだけだ。

風は弱いといってもいつまでもいられるほどではないので、記念撮影を終えたら下山開始。途中で広木パーティとすれ違い、夏澤鉱泉から入山している田中パーティがまだ硫黄岳に登頂していないことを知った（後で聞くと、タクシーが入れず3時間余計に歩いたとのこと）。別パーティに運んでもらった設営済みのテントに荷物を置き、赤岳鉱泉のおでんをいただいてしみじみ温まった。

2 2日目

7時に出発して、まずは行者小屋へ。小屋は閉まっているし、賑わっていた赤岳鉱泉に比べ、テントの数も少ない。支度を整えて地蔵尾根へ入った。記憶のとおり、最初は緩やかだが次第に急登になっていく。休みながらゆっくりと登っていった。鎖や梯子の続く上部では風があり、空の雲も流れている。



昨日とは違い、今日の稜線は風が強い。取り急ぎ展望荘の陰に回って休憩しながら作戦会議。赤岳山頂を目指すかどうか悩みどころだが、メンバーの思惑はいろいろ（たぶん）。せっかくのチャンスなので登りたい気持ちはあったが、さっき突風にあおられたことを考えると弱気も出て、リーダーに撤退を告げられて嬉しいような残念なような複雑な気持ちだった。またいつか来れるといいけど。

そうすると、後は本日の核心となる鎖場を突破して下るだけ。樹林帯に入ると、日帰りなのか意外に登ってくるパーティがいる。滑る下りは最後までアイゼンをつけ、無事に下山。

JR 甲斐大泉駅前「パノラマの湯」で汗を流し、というか温まり、帰途に就いた。両日ともお天気がよく、歩きがいてもあってとても気持ちのいい山行だった。